

学科 こどもの生活	所感
氏名 加藤 彰浩	自分のこれまでの活動を振り返ることで、自分が行ってきた内容を整理し、改善しなければいけないことやさらに発展させなければいけないことが明確化され、考えなければいけないことやさらに学ばなければいけない事柄が明確になった。また、自分の足りないところも明確になり、努力すべきことも抽出することが出来た。

家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。

## 1 教育の責任

私は家政学部こどもの生活学科(専攻)の教員として、2024年3月時点で7年間教壇に立ってきた。こどもの生活学科では、これまでの7年

科目名	専攻	開講期	受講者数	備考
運動の科学	こ生	1年前期	36	共通科目
こどもの健康 I	こ生	2年前期	48	専門科目
児童体育	こ生	4年前期	0	専門科目
基礎演習C	こ生	2年前期	47	専門科目 オムニバス
教職保育特論3(幼保)	こ生	3年前期	3	専門科目 オムニバス
教職保育特論7(幼保)	こ生	4年前期	6	専門科目 オムニバス
体育実技	こ生	1年後期	34	共通科目
体育科学研究	こ生	2年後期	58	専門科目
基礎演習D	こ生	2年後期	50	専門科目 オムニバス
教職保育特論1(幼保)	こ生	2年後期	16	専門科目 オムニバス
教職保育特論5(幼保)	こ生	3年後期	6	専門科目 オムニバス
卒業研究	こ生	4年通年	3	専門科目
アウトリーチ スタートアップ/ I	こ生	1年通年	16	共通科目 オムニバス

間でオムニバス科目も含め合計 25 科目(実習を含む)を担当した。その中でも、2024 年度は 13 科目を担当した(資料 1)。右記の授業科目の一覧のうち、教養科目では、社会人として必要とされる知識およびスキルの獲得を目指し、専門科目では保育士・幼稚園教諭・小学校教諭となるための専門的な知識やスキルの獲得を目指した科目である。また、就職対策科目では、就職活動で必要とされる専門的知識や考え方、礼儀など社会人として必要とされる事柄はもとより、専門家としての素養を身に付けられるように内容構成をしている(資料 2)。また、2024 年度より系列高校との高大連携事業の一環として、高校生のキャリア形成のため「スポーツ・健康科学」の講義を実施している。

## 2 教育の理念と目的

高等教育機関である大学が果たす役割として、学生を社会で通用する人間として送り出す責務がある。愛知学泉大学に入学する学生を見ていると、自己有能感が低く、困難なことに根気よく立ち向えず、また自分で考え、答えを出すことが苦手な学生が多い。そのため、自分に対する甘えをなくし、自分の行動に対し責任を持って行動し、

困難な事かに対しても逃げずに立ち向かっていけるように指導していく必要がある。

こどもの生活学科の学生は、多くが保育士・幼稚園教諭・小学校教諭となり、正解が定まっていない分野の専門家として就職していく。これらの分野では、状況ごとに対応が異なり、ケースバイケースの事案が多いため、最善と思われる対応を自分でその時々で判断し、対応していかなければならない。また、正解がわからない事案が多いため、状況把握を徹底し、根気よく対応していく能力が求められる。そのため、大学における教育活動においては、教養的・専門的な知識・技能の一方的な教授ではなく、学生が自ら考え、知識・技能を獲得し、それらを活用して解決へと結び付けられる能力を育成していく。教員が安易に答えを与えるのではなく、学生が自分達なりの考えを出すように導き、必ず学生が自分の考えを持つような状況に置かせ、自ら考え抜く意識を育成させる。また、各個人に責任を持たせ、各個人の行動に自覚を持たせ、社会人として、教育者として恥じない行動を取れるように指導する。

### 3 教育方法

オムニバス科目および実習科目を除く全ての科目で PCR シートを用いての授業前および授業後の予習および復習を実施し、シートの提出を求めており、学生に自学自修の習慣化を促している（資料 3）。また、学生に予習のための資料をあらかじめ多めに提示し、その中から学生が自分に必要な情報を取捨選択し、記載するようにさせ、学生に「情報を取捨選択し、整理する」機会を多く与えている。

講義科目では、適宜確認テストを実施し、知識の定着化を促している。さらに、成績評価は試験のみとし、授業や学修においてきっちり結果を出すことの重要性を認識させている。演習科目では、学生の実践力・応用力が育成できるようグループワークを取り入れ、学生が実施後に振り返る機会を作ることにより考えが推敲され、より考えが洗練化を図れるようにしている。さらに、成績評価におけるレポートでは、自ら具体的な課題やテーマを設定し、それに伴う資料や知識を収集し、構築することで作成される内容の課題を課し、自分で論理構成を考え、作り上げる形を取っている。必要に応じて、プリント・レポート等を添削・返却し、各自の振り返りの材料とさせている。また、授業や学校生活において ICT を積極的に導入し、資料提示や課題提示、課題提出なども Google Classroom や Google フォーム等を使用し、学生の ICT 活用力の育成や知識の理解度を上げる試みを行っている（資料 4）。

### 4 授業改善の活動

毎期後に提示される授業評価アンケートをもとに次期または次年度における授業改善を実施している。さらに、授業前後に学生と積極的にコミュニケーションを取ることで授業の理解度および授業方法が適正であったかを確認し、次の授業に生かそうとしている。また、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭養成科目を教えるということもあり、日本体育・スポーツ・健康学会、日本発育発達学会、に所属し、最新の理論や実践方法について修得するため、可能な限り学会に参加している。また、2020 年度～2023 年度に家政学部 FD 委員を拝命し、授業評価アンケートの検討、FD 研修会の企画等に参画した。さらに、2022 年度～23 年度に情報教育委員長を兼務し、ICT 活用の推進と学内環境改善に取り組んだ。さらに、2020 年度～2023 年度に家政学部教務委員を拝命し、コロナ禍における遠隔授業の実施方法における陣頭指揮を執り、学内のシステム構築と共に、教職員および学生の授業マニュアル作成と共に、授業支援を行った（資料 5）。

### 5 学生の授業評価

2018 年度から 2024 年度の授業評価を示した（資料 6）。これまでの教育活動の成果として、授業における学生の予・復習に費やす時間が増えるとともに授業に対する積極性や満足度も高く評価されている。これらは PCR シートなどの教育方法とともに、教育改善を行うことで学生の授業に対する意識の改善が数値として表されている。また、上記の授業方法や改善活動の結果により学生の授業における科目満足度も向上しつつある。しかし、コロナ禍を経て、学生の思考や授業に対するニーズなどが変化してきており、授業評価にも変化がみられている。このようなことを鑑み、授業方法の改善及び内容を変化させていきたいと考える。また、定期テストへの対応不足からどのように勉強したらよいかわからないという学生も増えてきており、授業内容を定着させる方法も ICT の活用も含め再検討していく必要がある。今後も、これらのアンケート結果を授業改善に生かしていく。

### 6 学生の学修成果

自分に甘えることなく、自分の行動に責任を持たせることで、自分の学修に対し前向きに捉え、予・復習など努力することが自分の成績に結びつくことを意識させることが出来るようになってきている（資料 6）。また、課題や試験、就職対策に対し、自ら考え、責任を持って自ら行動できる学生が増えてきている。さらに、将来関わる保

育士・幼稚園教諭・小学校教諭の職責を理解し、責任を持って行動する意識も芽生えてきている（資料 6）。しかし、RST の結果も含め、学生の読解力に伴う理解力の低下も見られており、それらへの対応として、PCR シートでの教科書の要約などを取り入れ改善を図っている。

2019 年度～2023 年度にこどもの生活学科 幼保公務員対策委員長として、公務員対策講座の企画およびマネジメントをしており、2019 年度は 4 名の合格、2020 年度は 6 名、2021 年度は 2 名（学年在籍者 10%程度）、2022 年度は 9 名（学年在籍者 25%程度）、2023 年度は 6 名（学年在籍者 35%程度）、2024 年度は 6 名（学年在籍者 25%程度）の合格者を輩出している（資料 8）。

## 7 授業科目に関連した教材開発

授業に関連する書籍や資料を精査し、関係各所を抜粋し、より授業に適した資料を提示している。運動科目では、学習イメージがつきにくいこともあるため、YouTube などの映像や画像データを精査し、Google Classroom や Google Drive にて提示することで予習におけるイメージが膨らませ、授業時における理解度が進むように配慮している（資料 9）。また、授業が単調にならないように映像やオープンエデュケーションなどを精査し、学生の理解促進のため教材研究に励み、活用している。

また、pdf ファイルなどスマホや PC で見られる資料を提示し、学生が時間を効率よく使い、学修できるように配慮している。また、スマートフォンアプリなどを精査し、効率的に学習できるように学生へ活用を促している。授業においては、スライド資料を pdf 化し、PC、スマートフォン、タブレットにて学習ができるように提示している。

## 8 指導力向上のための取り組み

FD 委員会が開催する研修会に参加し、授業改善のための知識および技術の習得に努めている。さらに、他学科や他分野の教員の授業観察を通して新たな観点を取り入れ、自分の授業に生かしている（資料 9）。

また、FD 研修会で配布された資料とは別に、ループリックや TP 等の論文や文献、サイトなどを検索して一読することにより関係する知識を深め、より効果のある FD にしようとして心掛けている（資料 11）。さらに、ICT を活用し、効果的な授業実践を検討し、本学 SE と相談・協力しながら新たなツールを模索した。また、電子黒板の有効な活用を模索し、メーカーが行う研修会に参加した（資料 12）。さらに、学内 SE と定期的なディスカッションと ICT 関連資料をチェックした。

また、2020 年度前期は新型コロナウイルス感染防止の観点より授業がオンラインで実施されたため、教務委員会としてオンラインでの授業実施のための方法を考え、専任教員、非常勤講師および学生に対する遠隔授業マニュアル作りおよび講習会を実施した（資料 13）。また、2020 年 9 月には、第 1 回 FD 研修会「オンライン授業のブラッシュアップのために」というテーマで、前期に実施したオンライン授業をより対面授業と同等以上の授業効果を生むための方法を講師として専任教員に講習した（資料 14）。

さらに、2022 年度より情報教育委員長として、ICT の推進をするため研修会などを企画し、Google Classroom を中心とした授業における ICT の利活用を推進するとともに講師を務めた（資料 15）。また、JM00K や gacco などのオープンエデュケーションを活用し、授業実践に必要な知識を修得し、授業へ取り入れている。

## 9 今後の目標

**【短期目標】** これまで同様、学生に自分の行動に責任を持たせ、自学自修をさせることに自ら考え行動する学生を増やし、将来の職責を意識して行動できる学生の育成をすること。健康や運動に対する知識を今以上に学生に持たせるような工夫が出来るようになること。学生の自学自修を基本とした学修改善が行われ、自分の将来について自ら切り開く意識と行動力を持った学生の育成をすること。公立保育職の合格者を 20 名とすること。幼児関連の感覚統合関係の研究論文を執筆、投稿し、幼児教育における運動能力向上へ向けた新たな指導法を提供すること。

**【長期目標】** 学生が自学自修できるようになるための環境整備と意識改革システムの確立をすること。ICT を駆使し、効果的な学修環境の整備をすること。学生が学習意欲の湧く授業方法を確立すること。高校生にとって魅力あるこどもの生活学科となるような学科内容にすること。

## 10 添付資料

（資料 1）2018-2024 年度愛知学泉大学家政学部シラバス

（資料 2）桜満開プロジェクト企画書

（資料 3）「運動の科学」「体育科研究」「こどもの健康 I」「体育実技」PCR シート

（資料 4）Google classroom を用いた課題提示および提出例

- (資料 5) 遠隔授業受講マニュアル (教員用) (学生用)
- (資料 6) 2018~2024 年度前・後期授業評価アンケート
- (資料 7) 保育実習指導 I および II 事後指導課題・レポート課題
- (資料 8) 就職指導委員会総括会議資料 2019・2020・2021・2022・2023・2024
- (資料 9) Google classroom 参考資料
- (資料 10) 2019・2020・2021・2022・2023・2024 年度 FD 授業観察記録
- (資料 11) ルーブリック作成関連論文
- (資料 12) リコー主催電子黒板講習会資料
- (資料 13) 家政学部オンライン授業マニュアル教員版、学生版, 2024 年度 ICT 活用授業マニュアル教員版・学生版
- (資料 14) 2020 年度第 1 回 FD 研修会資料および講習会用 Google Classroom サイト (<https://classroom.google.com/u/0/c/MTI3ODA2MTY4MDM2>)
- (資料 15) 2023 年度第 1 回 ICT 活用研修会